

資料館だより

CONTENTS

- 1… TOPICS
- 2… 展示活動報告
- 3… 資料館での雑感／事業報告
- 4… 開催案内／資料館業務日誌／平成26年度入館者

チューリップ絵皿
(暁烏陶磁器コレクション)

TOPICS

資料館特別講演会「大学文書館の役割～広島大学文書館を一例に～」を開催

—「シンクタンク化」する大学文書館(継続性の担保, 立案基盤の提供)—

資料館では、11月17日、金沢大学角間キャンパス(本部棟6階大会議室)で、小池聖一広島大学国際研究科教授(同大学文書館長)を講師にお招きし、特別講演会「大学文書館の役割～広島大学文書館を一例に～」を開催しました。

この講演会は、本学教職員に対し、本資料館の役割と目指すべき方向性等について周知することを目的として企画したものです。

小池教授からは、文書館における人文書の統一的管理とその重要性やこれからの大学文書館等について講演いただきました。

会場には、山崎学長、福森理事のほか、約60名の方々が集まりました。



小池聖一広島大学文書館長の講演風景

平成 26年度
金沢大学資料館特別講演会

大学文書館の役割 ～広島大学文書館を一例に～

広島大学文書館長
小池 聖一 教授

主 催 金沢大学資料館

金沢大学資料館(国史公文書館)への指導・助言を受け、国史公文書館の業務を支援し、国史公文書館の業務の発展に貢献することを目的として、本講演会を開催いたします。本講演会は、文書館における人文書の統一的管理と重要性やこれからの大学文書館等について講演いただきます。当日は、山崎学長、福森理事のほか、約60名の方々が集まりました。

日 時 11/17(月) 午前10時00分～11時30分
入場無料

場 所 金沢大学 角間キャンパス 本部棟6階大会議室

特別講演会チラシ

小池聖一広島大学文書館長が特別展を見学

11月17日、小池聖一広島大学文書館長が資料館特別展「超然一第四高等学校の校風と学生たち」を見学されました(p2に関連記事)。

同氏のお父様が第四高等学校卒業生とのことで、資料館職員の説明に耳を傾け、熱心にご覧になっておられました。



四高生必須の帽子、マント、厚歯下駄や「超然」旗を眺める小池教授

展示活動報告

特別展

超然 — 第四高等学校の校風と学生たち —

会期 平成26年10月15日～11月28日 会場 金沢大学資料館展示室



特別展チラシ

金沢大学では、近年、歴史的なアイデンティティとして旧制第四高等学校(本学の前身校。略称:四高)との繋がりが見直され、その関心は、四高の校風「超然主義」にまで及んでいます。

資料館では、この「超然主義」の意義と、本学が将来に向けて発展していくために継承すべきものは何かを具体的に実感してもらえるよう、貴重な関係資料を一堂に会した特別展を開催しました。

本特別展では、学生らによって書かれた「超然趣意書」(1908(明治41)年)の実物や四高の寮であった時習寮の看板などとともに、四高生の必須アイテムであった手ぬぐいのコレクション、寮生活の一端が垣間見られる寮祭の記念絵葉書、運動部の部誌、制服・柔道着など、当時の学生生活の雰囲気が伝わる品々約100点とパネル約70点で四高学生らの世界を再現しました。



扁額「超然」の下で「超然趣意書」を覗く山崎光悦学長

金沢大学工学部同窓会(電気工学科 昭和39年卒)一行が来館

10月21日、金沢大学工学部同窓会(昭和39年卒)一行が資料館特別展を見学されました。

後日、特別展をご覧になられたお一人様から次のような心温まるメールが届きました。スタッフ一同、これからも、多くの皆さんに来館してもらえるような展示企画に努めたいと思っておりますので、今後とも御指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



資料館職員から、「明倫堂」(扁額)の説明を聴く同窓会の皆さん

拝啓

一昨日はお陰さまで大層有意義な30分となりました。当初調査では、城内キャンパスと工学部で過ごした我々としては、「角間キャンパスをぞ見てもしようか」という声もあったのですが、私自身資料館を見て組み入れることに決めました。見学後は、異口同音「来てよかった」でした。その足で工学部跡地、天徳院を経て白鳥路ホテルへ、そして金沢城公園(城内キャンパス)散策、昨日は兼六園時雨亭とひがし茶屋を巡り楽しい24時間でした。

今回の資料館訪問では小雨の中駐車場までお出迎えに預かり、また丁寧な解説をいただきました。本当にありがとうございました。

——(略)——

資料館がさらに多くの卒業生と一般の方々に知られるようにと願いつつ筆をおきます。

敬具

平成26年10月23日



WHO本部事務局長補が来館

10月27日、中谷比呂樹WHO本部事務局長補が資料館特別展を見学されました。短時間ではありましたが、資料館職員の説明に耳を傾け、熱心にご覧になっておられました。

1931(昭和6)年当時の「金沢駅発車時間表」(金沢市立玉川図書館近世史料館蔵)を覗く中谷比呂樹WHO本部事務局長補

写真展

よみがえる城内キャンパス

会期 会期：平成26年10月28日～11月6日 会場 金沢城公園鶴の丸休憩所



写真展チラシ

資料館では、今年(平成26年)も、金沢城公園内の鶴の丸休憩室の一角を借りて、懐かしい城内キャンパス(正式には丸の内キャンパス)時代の写真展を開催しました。

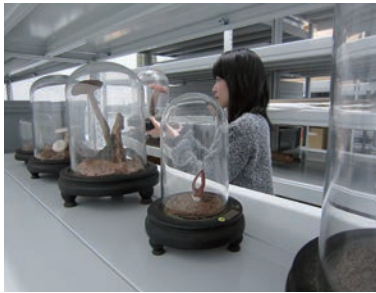
本写真展は、毎年「金沢大学ホームカミングディ」の開催日(本年は、11月1日(土)に開催)に併せ実施しているもので、卒業生の皆さんが懐かしい城内で、当時の思い出に浸っていただくことを目的に企画しています。

写真展では、城内キャンパスの風景や学生生活を写した写真などのパネル16点を展示しました。



展示会場で、懐かしい写真を見つめる来場者の皆さん

学生から見た資料館



【企画展「植物図鑑」の出品資料(キノコのムラージュ標本)を確認する学生】

本資料館では、31点のキノコのムラージュ標本を保存している。また、医学部記念館でも、約220点の皮膚のムラージュ模型を保存している。

「植物図鑑」。私たち博物館実習の受講生が企画から運営まで全てを担う企画展のテーマです。「資料館だより45号」でも取り上げられましたが、金沢大学の学生が、資料館を、学芸員養成のための基礎的知識を身に付ける場として、また博物館実習のメインイベントである企画展を

開催する場として利用することは初の試みです。

学芸員資格取得のためには、金沢大学で開講されている授業を履修することに加え、一般の博物館においても学芸員養成のための実習を行う必要がありますが、約1週間の学外実習と比較すると、今回の資料館での企画展準備には莫大な時間が費やされています。

博物館実習を受講しているということもあり、さすがに資料館に足を踏み入れたことのない実習生はいませんが、鑑賞者としてではなく運営側として資料館を眺めることは、全実習生にとって初体験です。膨大な資料を誇る金沢大学資料館の収蔵庫からどの作品を展示するかという話し合いから始まり、展示室のキャパシティや什器のサイズの把握、作品の配置決め、キャプションの制作等、一つ一つの課題をクリアしながら着実に準備を進めています。

鑑賞者の大半を占めることになるであろう学生への配慮も必要です。企画展に興味を持ってもらうための作品選び、より多くの作品を飽きずに鑑賞してもらうための鑑賞順序の工夫等、学生ならではの柔軟な発想で企画展の運営に取り組んでいます。

附属図書館の奥にあるせいか、はたまた展示物が学生にとって馴染みの薄いものであるからか理由は定かではありませんが、学生の間での資料館の認知度や利用率は決して高くはないと思われます。今回の学生主体の企画展開催が学内における資料館の認知度を上げるとともに、附属図書館の利用が可能である地域住民の皆さんにも足を運んでもらうきっかけとなれば幸いです。

人間社会学域国際学類米英コース4年
示野 美咲

事業報告

「千葉市科学フェスタ2014」に資料館が出席

今回、千葉市科学館から本資料館が所蔵する資料に対し、「千葉市科学フェスタ2014」(会期：平成26年10月11～12日、会場：千葉市科学館)への出展を打診されました。

当館では、第四高等学校物理実験機器の中から、ケーロスコープ(ジャイロスコープ)、サイレン(模型)及びキルヒホフ・ブンゼン氏分光器の3点を出展しました。

※「千葉市科学フェスタ」は、千葉市などが主催となって、「千葉市民の皆さんが、日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる、総合的な科学の祭典」として毎年開催されています。



本資料館からの出展品に興味を示す来館者の皆さん

金沢大学50年史編纂事業収集資料の整備に着手



金沢大学創立50周年記念事業の一環として行われた「50年史編纂事業」で収集した約4,000点の資料は未整理のまま資料館に引き継がれました。

このたび、資料館収蔵庫内の大学史関係資料を整理する「金沢大学アーカイブ整備事業」が完了したことから、最後に残った本資料群を整理の上データベース化し、これを公開して学外からも利用できるようにすることを目指しています。

50年史編纂事業で収集した資料等が保管されている旧50年史編纂室

開催案内

企画展

「学生が贈る，企画展示。植物図鑑」

会期 平成26年12月12日～平成27年2月4日 会場 金沢大学資料館展示室

平成26年度博物館実習受講生たちが，授業の課題として，立案，企画，資料の選定，展示室の什器移動など，展示作業のほとんどを行った企画展です(p3に関連記事)。

この企画展では，資料館を植物図鑑に見立て，金沢大学が所蔵する「植物」に関する資料や作品(教育掛図やキノコのムラージュ標本，植物図など)を展示しています。

「資料館だより(46号)」をお届けできる頃は残り会期はわずかとなりますが，ぜひ一度ご覧ください。今までと違った“何か(新鮮さ?)”を感じてもらえると思います。



植物図鑑チラシ

資料館業務日誌

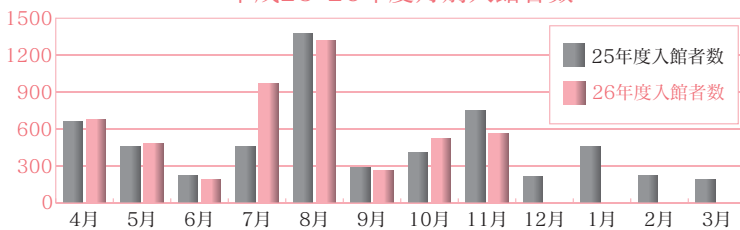
(平成26年8月～11月分)

7.9)～9.27	企画展「Art Museum? —金沢大学のアート・リソース—」
8.1	第2回資料館特別展WG
8.4	学長企画展視察
8.7～8.8	ミュージアム・ツアーの実施(オープンキャンパス対応)
8.22	平成26年度第2回資料館委員会(書面附議)
8.25	平成26年度第5回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
8.25	夏目賢一金沢工業大学基礎教育部准教授，安成真理東京大学駒場博物館事務職員来館
8.26	ワークショップ「電子化アーカイブとその公開・利用・外部連携」(一橋大学)参加
8.29	木造仏台座等の補修(納品)
8.30～8.31	燻蒸作業の実施
9.2	第5回大学博物館等協議会・博物科学会WG
9.8～9.9	東北大学史料館視察
9.12	「資料館だより(第45号)」発行
9.16	平成26年度第6回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
9.30	資料館展示室内監視カメラの移設(機能アップ)及び撤去
10.11～11.12	「千葉市科学フェスタ2014」出展
10.15～11.28	特別展「超然 —第四高等学校の校風と学生たち—」 《10/25, 及び11/1～3(金沢大学ホームカミングディ・金大祭), 11/8, 15, 22》臨時開館
10.15	平成26年度第7回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
10.17	平成26年度著作権セミナー(愛知県会場)参加
10.21	金沢大学工学部電気工学科同窓会(昭和39年卒)一行来館
10.24	第6回大学博物館等協議会・博物科学会WG
10.27	中谷比呂樹WHO本部事務局長補来館
10.27	学長特別展視察
10.28～11.6	写真展「よみがえる城内キャンパス」
11.13	平成26年度第3回資料館委員会
11.13	平成26年度第1回紀要編集委員会
11.14	金沢大学角間北地区防災訓練参加
11.17	資料館特別講演会「大学文書館の役割 ～広島大学文書館を一例に～」
11.17	小池聖一広島大学文書館長来館
11.18～11.21	ミュージアム・ツアーの実施
11.19	平成26年度第8回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
11.19	「金沢大学資料館紀要(第10号)」論文募集開始
11.21	中国・張榮強北京師範大学歴史学院副院長他来館
11.26	シンポジウム「今，なぜ大学史か —その意義と展望—」(名古屋大学)参加

平成26年度入館者

(平成26年4月～11月分)

平成25・26年度月別入館者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	661	457	224	460	1,379	287	411	749	211	461	224	193	5,717
26年度	677	485	188	968	1,321	262	523	566					4,990

お知らせ

資料館展示室で，平成27年2月18日から3月23日まで，フレスコ壁画研究センター主催による展示「イタリアの壁画遺産を守る—金沢大学の日伊共同プロジェクトの成果—」が開催されます。

また，同期間中の3月1日には，金沢大学角間キャンパス人間社会1号館で，シンポジウムも開催されます。

ぜひ一度足をお運びください。

南イタリア洞窟教会に描かれた中世壁画の調査風景



編集後記

大学における公文書の統一的管理の重要性等について，小池聖一広島大学文書館長からご講演頂いた(P1に関連記事)。

ここ数年来の金沢大学50年史編纂事業や金沢大学創基150年記念事業等々で，「資料館で〇〇年頃の〇〇に係る記録(議事録等)がないですか?と尋ねられることが多々あった(苦笑)。

ようやく，公文書(記録)を保存する重要性・必要性が認識されてきたが，以前は，資料館側から，保存期間満了文書(歴史公文書)の移管をお願いしても，「なぜ欲しいのか?」と執拗に問われ，揚句には拒否される様子が起きるなど，虚しいものであった。

この講演を機に，公文書(記録)を保存する大切さとともに，自らの業務を行う上での必要性・重要性(過去の検証と将来に対する説明責任)を今一度認識して欲しいと願うばかりである。

(井川俊昭)

金沢大学資料館だより 第46号 平成27年1月15日発行



【発行/編集】金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-5215 FAX 076-234-4050
Mail museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

<http://museum.kanazawa-u.ac.jp>